

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年8月18日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合) [No.142]

## JR総連は革マル浸透の第三者による真相解明を申し出よ！

前号では、JR総連が8月5日付「JR総連通信 No.986」で「JR総連・東労組内に革マル派が浸透している」とする政府見解を否定し、当該問題の解明も一切する姿勢もなく、刊行物への掲載などについて「悪宣伝・妨害」だと一方的に主張していることを説明した。

JRへの革マル派浸透は、きわめて公益性の高い重要な治安問題であり、JR総連は、この問題について説明すべき社会的責任がある。政府見解を否定するならば、公益に照らし、第三者による革マル派浸透の問題徹底した真相解明を行うよう民主党に要請すべきだ。

### 「治安フォーラム」の「真の姿を隠した革マル派の潜り込み」記事とは

ところでJR総連は、当該情報で革マル浸透問題を取り上げた刊行物として「治安フォーラム」「Will」「新潮45」「週刊新潮」「産経新聞」を挙げた。この機会に「治安フォーラム」(立花書房)の当該記事(平成22年6月号「『善良な市民』の仮面で革命勢力としての真の姿を隠して活動する革マル派」松尾学著)の関係部分を紹介したい。

#### はじめに

(前略)...革マル派の仮面 - 市民の警戒心を解き、自らをあたかも普通の一般市民であるかのように見せかけるための作り笑顔やマスクを付けた鉄面皮な実態を紹介したい。その上で、そうした外見の下に隠された裏の顔 = 素顔 - 日本の民主主義社会を暴力で完全に破壊し、社会主義、共産主義社会の実現を目指す、治安攪乱勢力としての真の姿 - を暴露し、分析しておきたい。

#### 1. 仮面をかぶっての活動 (1)「JR東労組」

(前略)...松崎明氏は、このJR東労組の元会長であり、同派創設時の副議長でもあった。平成13年に会長職を退いた後現在に至るまで、同労組執行部への絶大な影響力を有し、最近では、同労組内での革マル派「理論」の浸透に努めている。...(中略)...そのJR東労組は、現在は革マル派との関係を表向きには否定している。ところが、JRが昭和62年に民営化される以前の国鉄時代には、JR総連・JR東労組の前身である「動労」が頻繁にストライキを決行し、同派がこれを公然と支援するなど、両者の関係はかなりオープンなものであった。...(中略)...ところが、完全民営化されたJR東日本には、民間企業として当然に求められる自立的な採算性はもちろんのこと、コンプライアンス(法令遵守)も厳しく求められることとなった。JR東労組にとっても、革マル派との関係を秘さざるを得ない状況になった。というのも、革マル派に対する警察の捜査が進捗し、非公然アジトが摘発されるなどしたことにより、同派の非公然部門が、窃盗、住居侵入、盗聴等の違法行為を伴う調査活動等を組織的、日常的に行っていることが明らかになるなど、それまで表面化してなかった同派の悪性が広く知れわたったのである。そこで、革マル派との関係を躍起になって否定し、批判、非難の矛先がJR東労組に向かわないよう必死になっているのだ。...(中略)...新入社員の多くはJR東労組の組合員となり、この中からお眼鏡にかなった者がピックアップされてターゲットとなり、革マル活動家の候補者としてオルグの対象者となる可能性も大いにある。...(中略)...いつの間にか革マル派の理論を植え付けられ、革命集団の構成員の1人になっていたということも現実には起こりえるのだ。

警察は今年6月にも都内で革マル派非公然アジトを摘発するなど、現在も同派の実態解明に全力を挙げている。中井国家公安委員長が答弁した通り、政府は、今なおJR総連・東労組に革マル派が浸透していると認識しているが、この公式見解は警察の着実な捜査や分析に裏付けられた確信のある内容であることは間違いない。